資料１

長野県森林づくり県民税活用事業

長野地域振興局管内分

目次

１「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備

■　みんなで支える里山整備事業 ①・・・・・・・・・　P１
■　里山整備方針作成事業 ③・・・・・・・・・・・・・　P２
■　県民協働による里山整備・利用事業 ⑤・・・・・　P２
■　地域で進める里山集約化事業 ⑥・・・・・・・・・　P３

２ 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用

■　「子どもの居場所」木質空間整備事業 ⑦・・・・　P３
■　木づかい空間整備事業 ⑦・・・・・・・・・・・・　P４
■　木工体験活動支援事業 ⑦・・・・・・・・・・・・　P４
■　松くい虫枯損木利活用（チップ化）事業 ⑨・・・　P５

４ 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用

■　森林セラピー基地等施設整備支援事業 ⑪・・・・　P５
■　学校林等利活用促進事業 ⑭・・・・・・・・・・・　P６
■　観光地等魅力向上森林整備景観整備事業 ⑯・・・　P７

５ 市町村に対する財政調整的視点での支援

■ 森林づくり推進支援金 ⑰・・・・・・・・・・・・・　P８
長 野 市　・・・・・・・・・　P９
須 坂 市　・・・・・・・・・　P15
千 曲 市　・・・・・・・・・　P19
坂 城 町　・・・・・・・・・　P27
小布施町　・・・・・・・・・　P31
高 山 村　・・・・・・・・・　P37
信 濃 町　・・・・・・・・・　P43
飯 綱 町　・・・・・・・・・　P45
小 川 村　・・・・・・・・・　P49

６ 令和元年度森林づくり県民税活用事業　執行状況（他所管分）

■ 他部局により実施されたもの（②④⑫⑬⑮⑯）・・　P53

（目次の項目は、資料１ P8 事業別実績一覧の事業名を記載しています）

長野県森林づくり県民税活用事業

令和元年度実績＆令和２年度実施見込み

１「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備

■　みんなで支える里山整備事業　①

整備の遅れている集落周辺の里山において、間伐等の森林整備を行う経費を助成
（補助率 9/10 以内）

【２年２月末現在】

市町村	令和元年度実績見込み		令和２年度実施要望		備　考
	間伐面積等（ha）	補助金額（千円）	間伐面積等（ha）	対前年度比	
長野市	63.76	16,532	157.00	246%	
須坂市	10.48	3,332	10.00	95%	
千曲市	33.98	9,644	12.00	35%	
小布施町	0.00	0	0.00	－	
坂城町	0.00	0	13.00	－	
高山村	10.42	3,907	25.00	239%	
信濃町	3.46	1,952	2.00	57%	
飯綱町	0.00	0	0.00	－	
小川村	25.86	7,286	32.00	123%	
計	147.96	42,655	251.00	159%	

■　里山整備方針作成事業　③

「防災・減災」の観点から、航空レーザ測量等のデータを活用して優先的に森林整備を行う必要がある箇所を抽出・点検し、方針として図面にまとめ「見える化」を進めています。（補助率：10/10 以内）

（金額単位：円）

市町村（事業主体）	令和元年度実績		令和２年度実施見込み	
	整備対象面積	補助金額	整備対象面積	補助金額
須坂市	4,615ha（須坂市全域）	690,000	補助事業は令和元年度で終了	
坂城町	3,597ha（坂城町全域）	1,177,000		
信濃町	4,267ha（信濃町全域）	660,000		
計	３箇所	2,527,000		―

■　県民協働による里山整備・利用事業　⑤

長野県ふるさとの森林づくり条例に基づき「里山整備利用地域」に認定された地域での住民等の協働による里山整備や利用を促進するため、活動推進主体が行う地域活動や資機材導入の支援を行っています。

（１）里山整備利用地域活動推進事業（補助率：10/10 以内）

（金額単位：円）

所在市町村	里山整備利用地域名	事業主体	補助金額	
			令和元年度実績	令和２年度実施見込み
長野市	七二会	（特非）信州フォレストワーク	120,000	220,000
〃	戸隠豊岡	戸隠森林整備クラブ	450,000	1,100,000
〃	浅川	あさかわの里山と森を守る会	500,000	795,000
〃	七二会２	七二会里山整備利用推進協議会	685,000	793,000
須坂市	離山	離山を守る会	1,061,000	1,443,000
〃	臥竜公園	臥竜公園里山整備利用推進協議会	1,759,000	660,000
〃	塩野	塩野地区里山整備利用推進協議会	100,000	189,000
坂城町	上平	上平親林協働整備協議会	570,000	1,177,000
〃	中之条	中之条区里山整備協議会	―	494,000
信濃町	柏原上ノ原	日中友好の森林づくり推進協議会	300,000	141,000
〃	富が原	富が原里山整備利用推進協議会	64,000	1,219,000
計		元年度：10 地域、２年度 11 地域	5,609,000	8,231,000

（２）里山資源利活用推進事業（補助率：3/4 以内）　　　　　　（金額単位：円）

所在市町村	里山整備利用地域名	事業主体	補助金額	
			令和元年度実績	令和２年度実施見込み
長野市	七二会	（特非）信州フォレストワーク	－	123,000
〃	戸隠豊岡	戸隠森林整備クラブ	1,125,000	－
須坂市	離山	離山を守る会	－	264,000
〃	臥竜公園	臥竜公園里山整備利用推進協議会	－	693,000
坂城町	中之条	中之条区里山整備協議会	－	782,000
信濃町	富が原	富が原里山整備利用推進協議会	985,000	－
計		元年度：２地域、２年度：４地域	2,110,000	1,862,000

■　地域で進める里山集約化事業　⑥

里山の森林整備を推進するため、間伐計画地の森林所有者の合意形成や境界明確化の取組を支援しています。（補助率：3/4 以内）

（金額単位：円）

市町村	令和元年度実績		令和２年度実施見込み
	事業主体	補助金額	
長野市	（特非）信州フォレストワーク	27,000	実施予定（要望）なし
計	１箇所	27,000	－

２　自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用

■「子どもの居場所」木質空間整備事業　⑦

児童センター等の「子どもの居場所」において、モデル性の高い施設整備や子ども向けのおもちゃ等の設置を支援し、県産材利用の意識醸成や地消地産による森林資源の循環利用を促進しています。

（１）木造・木質化（補助率：1/2 以内）　　　　　　（金額単位：円）

施設設置市町村	令和元年度実績		令和２年度実施見込み	
	事業主体　［整備施設］	補助金額	事業主体	補助金額
須坂市	八田建設(株)［八田建設ツリーハウス＆木育広場］	1,545,000	一次募集申込なし 現在二次募集実施中	
信濃町	（株）ＭＥリゾート黒姫［黒姫コスモプラザ］	2,299,000		
計	２箇所	3,844,000		

（２）木の調度品、おもちゃ等の設置（補助率：3/4 以内）　（金額単位：円）

施設設置市町村	令和元年度実績		令和２年度実施見込み	
	事業主体　［設置施設］	補助金額	事業主体　［設置施設］	補助金額
長野市	（福）睦会 ［もみのき保育園］	328,500	（学）旭キリスト教学院 ［旭幼稚園］	183,975
〃	（宗）善敬寺 ［吉田幼稚園］	243,000	（福）守幼会 ［雷鳥保育園］	311,718
〃	（学）黒木学園 ［信濃ひまわり幼稚園］	229,000	（福）博愛会 ［松ヶ丘保育園］	375,000
〃	（福）はなぞの会 ［丹波島こども園］	375,000	（株）Ｕホールディングス ［長野トヨペット徳間店、長野トヨタ川中島店及びネッツトヨタ長野柳原店　各店舗内キッズコーナー］	637,500
〃	（学）いいづな学園 ［こどもの森幼稚園］	364,500		
須坂市	須坂市教育委員会 ［須坂市中央児童センター等９箇所］	582,606	須坂市教育委員会 ［須坂市子育て支援センター］	360,579
千曲市	長野トヨタ自動車（株） ［更埴店キッズコーナー］	157,500		
計	15 箇所	2,280,106	７箇所	1,868,772

■　木づかい空間整備事業　⑦

令和２年度新規事業　補助事業：要望なし
県事業　：長野合庁１階の内装木質化　必要額要望中

■　木工体験活動支援事業　⑦

県産材を利用して行う木工体験活動等を支援し、県産材利用の意識醸成や地消地産による森林資源の循環利用を促進しています。（補助率：3/4 以内）

（金額単位：円）

事業実施市町村	令和元年度実績		令和２年度実施見込み	
	事業主体　［実施箇所］	補助金額	事業主体　［実施箇所］	補助金額
長野市	（特非）信州フォレストワーク［昭和小他］	213,000	（特非）信州フォレストワーク［松ヶ丘小他］	225,000
〃	長野森林組合［戸隠小］	303,000		
千曲市	千曲市［大池市民の森他］	500,000	千曲市［大池市民の森他］	232,000
坂城町	坂城町［南条小他］	306,000	坂城町［南条小他］	306,000
小布施町	小布施町［北斎ホール他］	245,000	小布施町［北斎ホール他］	300,000
高山村	高山村公民館［高山小］	150,000		
小川村	小川村［小川小］	450,000	小川村［小川小］	450,000
計	７団体	2,167,000	５団体	1,513,000

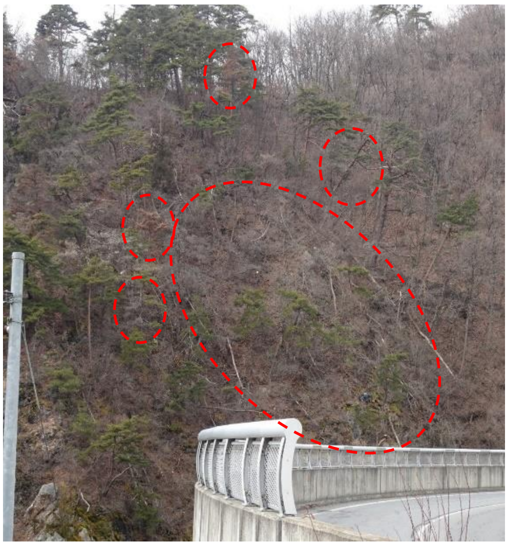
■　松くい虫枯損木利活用（チップ化）事業 ⑨

山林に放置され、有効活用されていない松くい虫枯損木を木質バイオマス発電の燃料（チップ）に資源化して利活用する取組を支援し、地域が主体となって行う松くい虫対策の推進を図っています。（補助率：9/10 以内）

（金額：千円）

事業主体名	実施箇所	補助対象額（実事業費）	補助金額	事業内容
長野市	浅川一ノ瀬ブランド薬師付近	2,000 (2,012)	1,800	急傾斜地の枯損木 11㎥ をクレーンにより搬出し、景観の改善と木材利用を推進
坂城町	高速道路沿線	2,000 (2,027)	1,800	高速道路沿線の枯損木74㎥を搬出し、景観の改善と木材利用を推進

利用した浅川ループ橋脇の枯損木（長野市）



利用した上信越自動車道脇の枯損木（坂城町）

4　多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用

■　森林セラピー基地等施設整備支援事業　⑪

森林の持つ癒しの効果、病気の予防効果が科学的に認められた森林セラピー基地等の利用促進のための整備を支援しています。（補助率：森林整備 9/10 以内、施設整備 1/2 以内）

（金額単位：円）

市町村（事業主体）	事業種目	令和元年度実績		令和２年度実施見込み	
		実施内容	補助金額	実施内容	補助金額
信濃町	森林整備	修景林間整備	1,359,720	修景林間整備	867,000
	施設整備	歩道や看板の補修	167,425		－
計			1,527,145		867,000

■　学校林等利活用促進事業　⑭

学校林の活用を促進するため、手入れがされず利用困難になっている学校林の整備を支援するとともに、学校林を活用した体験活動のための資機材の配布や講師の派遣を行っています。

（１）学校林等の整備／補助事業（補助率：9/10 以内）　（金額単位：円）

所在市町村	令和元年度実績		令和２年度実施見込み	
	対象学校	補助金額	対象学校	補助金額
長野市	いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校・中学校	983,700	いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校・中学校	198,000
〃			安茂里小学校	69,913
坂城町	坂城小学校	360,000	坂城小学校	360,000
小川村	小川小学校	1,260,000		
計	３校	2,603,700	３校	627,913

（２）学校林等の整備／県事業　（金額単位：円）

所在市町村	令和元年度実績		令和２年度実施見込み	
	対象学校	事業費	対象学校	事業費
長野市	若槻養護学校	195,800	若槻養護学校	806,652
計	１校	195,800	１校	806,652

（３）活動支援（資機材の配布、講師の派遣）　（金額単位：円）

所在市町村	令和元年度実績		令和２年度実施見込み	
	対象学校	事業費	対象学校	事業費
長野市	いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校・中学校	204,701	いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校・中学校	429,950
〃	芋井小学校	165,513	安茂里小学校	178,750
〃	鬼無里小学校	98,340		
小川村	小川小学校	118,714		
計	４校	587,268	２校	608,700

■　観光地等魅力向上森林整備景観整備事業　⑯

豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上を図るため、地域の景観に合致した森林整備等を推進しています。（補助率：9/10 以内）

（金額単位：円）

市町村 （事業主体）	令和元年度実績		令和２年度実施見込み	
	実施箇所	補助金額	実施箇所	補助金額
千曲市	仁科の里歴史公園	1,980,000		
須坂市	峰の原高原	1,188,000	五味池破風高原	1,980,000
高山村	松川渓谷	1,989,000	松川渓谷	1,989,000
計	３箇所	5,157,000	２箇所	3,878,000

5 市町村に対する財政調整的視点での支援

■ 森林づくり推進支援金 ⑰

令和元年度　森林づくり推進支援金　市町村別一覧表（実績）

事業項目
　１「みんなの暮らしを守る森林づくり」
　２「木を活かした力強い産業づくり」
　３「森林を支える豊かな地域づくり」

市町村	事業項目	事　業　名	事　業　内　容	負担内訳（千円）		
				支援金	その他	計
長野市	1	松くい虫被害防除対策事業	松くい虫被害木駆除　79.83㎥	2,700	15	2,715
	3	緩衝帯整備事業	緩衝帯整備　3.47ha	3,400	5,799	9,199
	3	広葉樹林造成モデル事業	現況調査、保育手法の検討等	428	1,244	1,672
	計			6,528	7,058	13,586
須坂市	1	松くい虫被害木駆除事業	松くい虫被害木の伐倒駆除 及び破砕処理　41㎥	959	339	1,298
	2	間伐材利用促進事業	間伐材を活用した 「路面水切工」6か所 「ベンチ設置」8か所	580	7	587
	計			1,539	346	1,885
千曲市	1	松くい虫被害防除対策事業	個人、事業者が行う伐倒駆除、 地上散布、樹幹注入への経費補助 3件	127	57	184
	2	公園等における木製 ベンチの導入	木製ベンチ制作　10基	350	50	400
	3	協働による森林づくり事業	林研グループ、NPO法人等が行う 森林体験活動経費に助成　2団体	200	0	200
	3	里山景観整備事業	森林整備に取り組む団体に助成 14団体	840	0	840
	計			1,517	107	1,624
坂城町	1	里山景観整備事業	松くい虫枯損木伐倒　68本 広葉樹伐採搬出　15㎥	459	0	459
	1	森林景観整備事業	地域住民による松くい虫被害木の 伐倒　68本	293	10	303
	計			752	10	762
小布施町	1	補助対象外の 松くい虫被害防除	被害木の破砕処理　1.8㎥	69	1	70
	2	県産間伐材を用いた ベンチの設置	県産間伐材使用ベンチ　1基	41	1	42
	3	野生鳥獣緩衝帯整備	小布施町雁田地区での 緩衝帯整備　0.45ha	336	3	339
	計			446	5	451
高山村	1	松くい虫被害木駆除事業	森林以外の松くい虫被害木の伐倒 及び破砕処理	550	234	784
	3	村内緑化事業	苗木の配付　大山桜ほか61本	50	24	74
	3	緩衝帯整備事業	電柵進入路の刈払い　0.2ha	190	360	550
	計			790	618	1,408
信濃町	3	森林整備支援事業	刈払い機　2台購入(貸し出し用)	79	0	79
	計			79	0	79
飯綱町	2	木製ベンチの製作	折り畳み式木製ベンチ　2個	0	41	41
	3	野生鳥獣の緩衝帯整備	緩衝帯整備　0.5ha	612	94	706
	計			612	135	747
小川村	2	県産材を利用したバス停、 木製ベンチ製作事業	木製バス停　1基 木製ベンチ　2台作製	569	284	853
	計			569	284	853
合　計				12,832	8,563	21,395

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	長野市

No.	事　業　項　目	事　　　業　　　名
1	みんなの暮らしを守る森林づくり	松くい虫被害防除事業
事　業　費　　2,715,693 円　（うち支援金：2,700,000 円）		

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫被害量は依然として多く森林環境に悪影響を及ぼしていることから、森林の健全な育成と景観形成の保全のため、早急の対応を必要としている。

（２）本事業の目的

松林健全化推進事業及び保全松林健全化整備事業の補助対象外の松くい虫被害木駆除を行い、地域課題の解消と景観形成の整備を図る。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　市内一円

（２）対象者　　市内松林所有者

（３）実施方法　松くい虫被害木駆除（伐倒、薬剤処理等）

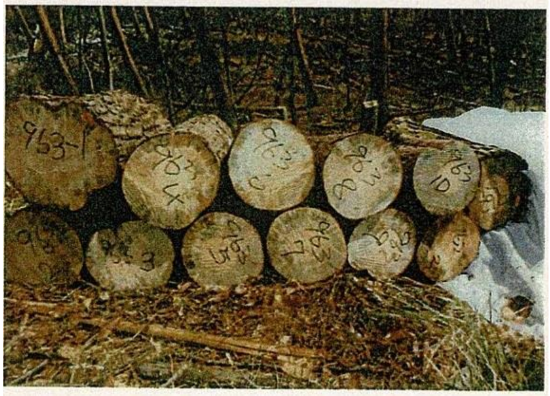
（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和４年度）

松くい虫被害木駆除（伐倒、薬剤処理）　900 ㎥

②令和元年度実績

松くい虫被害木駆除（伐倒、薬剤処理）　79.83 ㎥



事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

当年度内に被害木を処理することによって、次年度の被害拡大を防止できる。

（２）継続性

松くい虫による被害が軽減されるよう継続して被害木駆除を行い、被害の拡大防止を図る。

（３）普及性

地道に松くい虫被害木駆除を進めていく中で､松くい被害が早期に終息へ向かうよう努める。

被害木駆除を実施することで、松くい虫被害対策のＰＲを地域住民に対し行うことができ、緑豊かで健全な森林を広めることができる。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

森林づくり推進支援金で実施する被害木駆除では駆除残の処理を行うことができ、被害の拡大防止を図れている。

（２）課題

市内に広く散在するその他松林において松くい虫被害木駆除を進めていく中で、松くい被害の拡大に被害木処理が追いついていない。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

既存の対策事業で賄えない駆除残の被害木処理を引き続き実施し、被害の拡大防止を図る。

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	長野市

No.	事　業　項　目	事　　　業　　　名
2	森林を支える豊かな地域づくり	緩衝帯整備事業
事　業　費　9,198,658 円　（うち支援金：3,400,000 円）		

事　業　目　的

（別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

中山間地域の高齢化や森林活用の減少により、集落や農地と森林の境に人の整備が入らなくなり、野生鳥獣の出没が頻発している。野生鳥獣との緊張感を保つためには、森林整備を実施し、よりよい森林育成をするとともに、人間と野生鳥獣の棲み分けを図っていくことが重要である。

（２）本事業の目的

手入れの遅れている里山エリアで間伐等（緩衝帯）の森林整備を進めることにより、本市において増加している野生鳥獣の農業被害、人身被害を防止する。

事　業　内　容

（別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　市内一円

（２）対象者　　里山に隣接する地域等の住民

（３）実施方法　市内の集落・農地周辺の森林、耕作放棄地（林地化した非農地）において間伐等の森林整備を行い緩衝帯として整備

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和４年度）

平成 30 年度　市内 18 箇所　5.22ha　　令和元年度　市内 20 箇所　3.47ha

令和２年度　市内 20 箇所　12.0ha(見込)　令和３年度　市内 20 箇所　12.0ha(見込)

令和４年度　市内 20 箇所　12.0ha(見込)

②令和元年度実績　市内 20 箇所、3.47ha

若穂保科外山区

若穂保科八幡区

事 業 効 果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

集落周辺に存在する身近な里山を、緩衝帯機能を持った森林として間伐等の整備することにより、野生鳥獣の出没と被害を抑制する。また、地域住民の森林に対する関心を高めるとともに、維持管理作業を行いながら地域で取組む里山整備の推進に結びつけていく。

（２）継続性

事業実施後の緩衝帯は、長野市緩衝帯維持管理支援事業補助金を活用するなど、地域住民の手により、緩衝帯機能の維持が図られている。緩衝帯整備による野生鳥獣に出没抑制効果を実感し、地域住民自らが森林整備を実施するなど効果が表れてきている。

（３）普及性

緩衝帯整備を実施した地域だけでなく、周辺の地域でも野生鳥獣の出没・目撃が減少するなどの好影響が出てきている。周辺地域でも、緩衝帯整備に対する要望が増加してきており、事業効果に期待が寄せられている。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

野生鳥獣による農作物等の被害が発生している地域で、3.47ha の緩衝帯整備を行い、農地・集落周辺の里山環境整備によって、クマ、イノシシ等野生鳥獣の出没件数が減り、農作物被害が減少している傾向にある。

（２）課題

里山環境整備により、事業実施地域での出没件数及び農作物被害は減少傾向にあるが、未整備地域では何ら変化はない。また、野生鳥獣の根本的な個体数調整も必要ではないかと考える。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

令和２年度も、電気柵との併用を推進しつつ、緩衝帯（里山）整備事業実施の地域要望に応えるべく事業を継続していく。

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	長野市

No.	事　業　項　目	事　　　業　　　名
3	森林を支える豊かな地域づくり	広葉樹林造成モデル事業
事　業　費　1,672,000　円　（うち支援金：428,000 円）		

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

伐採後の天然力を活用した森林造成の方策を確立することで、森林所有者の主伐後の選択肢を増やす。

（２）本事業の目的

天然更新した森林を育成天然林施業のモデル林として継続的に活用する。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　　門沢・上ケ屋・田野口・小鍋モデル林　約 3.0ha

（２）対象者　　　市内森林所有者

（３）実施方法　　・市営林を皆伐し、広葉樹林化へのモデル林を設置。

・研究機関と連携し、広葉樹林を造成するための調査研究を行う

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和４年度）

・モデル林４調査個所を設置し、皆伐後の保育や更新の継続した調査の実施

②令和元年度実績

・調査業務委託　　－伐採前の、森林の状況調査や伐採方法の提案

－保育手法の検討、データ整理等

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

伐採後の天然力を活用した森林造成の方策を確立することで、森林所有者の主伐後の選択肢を増やす。

（２）継続性

天然更新した森林を育成天然林施業のモデル林として継続的に活用する。

（３）普及性

「森づくりﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ inながの」等の市民参加型のイベントを通じ、事業のPRを行う。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

令和元年度も今後検討していくうえでの基礎的調査を行い、調査区内の木本類等の整理・特徴が正確に調査されていた。

（２）課題

この先も引き続き調査を実施していくものであり、更新樹種選定まではしばらく時間がかかる。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

更新判定を行う令和５年（2023 年）まで調査を引き続き実施していく。

☐事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

☐事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	須坂市

No.	事　業　項　目	事　　　業　　　名
1	みんなの暮らしを守る森林づくり	松くい虫被害木駆除事業
事　業　費　　1,298,000 円　（うち支援金：　959,000 円）		

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫被害が拡大し、森林の環境に悪影響を及ぼしていることから、森林の健全な育成と景観形成の保全のため、早急の対応を必要としている。

（２）本事業の目的

松林健全化推進事業及び保全松林健全化整備事業の補助対象とならない松くい虫被害木を駆除し、景観形成の整備を図る。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　　市内全域（居住地周辺を主体に実施）

（２）対象者　　地域住民及び松林所有者

（３）実施方法　　松くい虫被害木の伐倒駆除及び破砕処理

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和 4 年度）

被害木の処理　　40 本程度 / 年　×　5 年間

②令和元年度実績

被害木の処理　　41 本

民家隣接の神社境内

臥竜公園百々川緑地

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

　松くい虫被害の蔓延防止と森林の健全化。

（２）継続性

　松くい虫被害蔓延防止のため、防除対策を継続していくことが重要

（３）普及性

　松枯れは見た目にも悪く、倒木の恐れもあることから、駆除することで普及効果は極めて高い。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

　公園等の準公共施設の松くい虫の蔓延防止及び景観の維持を図ることができた。

（２）課題

　松くい虫被害の全容を把握し、被害木の適期駆除を徹底させるため、地域住民を巻き込んでの、被害木の早期発見に傾注する必要がある。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

　公園等の準公共施設の松くい虫の蔓延防止のため、同程度の事業規模で継続したい。

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	須坂市

No.	事　業　項　目	事　　　業　　　名
2	木を活かした力強い産業づくり	間伐材利用促進事業
事　業　費　　586,440 円　（うち支援金：　580,000 円）		

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

当市の森林の現状として、その多くが木材資源として利用可能な時期に達しており、林業は育てる時代から伐って使う時代へと移ってきていることから、地域での間伐による森林整備とその利活用が大きな課題である。

（２）本事業の目的

・坂田山共生の森において、今年度実施される県単治山事業に伴い、作業道の路面流水による流出防止のために必要な予防治山として、間伐材を利用した「路面水切工」を設置し、流量や流速の分散を図る。

・搬出間伐の促進と間伐材を利用し製作したベンチを公共施設等に設置することで、広く一般にＰＲする

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　　坂田山共生の森の作業道、公共施設

（２）対象者　　　地域住民と一般市民

（３）実施方法　　・治山事業に伴う間伐材を活用した「路面水切工」設置

・公共施設への間伐材ベンチの設置

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和４年度）

・間伐材を活用した「路面水切工」設置　　　６箇所

・間伐材ベンチ設置　　２箇所 / 年×５年

②令和元年度実績

・間伐材を活用した「路面水切工」設置　　　６箇所

・間伐材ベンチ設置　　８箇所

流出防止に効果を発揮した「路面水切工」

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

・県産材間伐材を活用した「路面水切工」を設置することで、県産材の有効活用と普及啓発を図ることができる。

・間伐材ベンチに開設パネルを併せて設置することで、県産材の有効活用と普及啓発を図ることができる。

（２）継続性

・山地災害による被害を防止・軽減する予防治山としての間伐材を利用した路面流水による流出防止のため「路面水切工」の設置は継続する。

・間伐材ベンチを継続的に設置することで、間伐材の活用事例を直接かつ継続的に市民に PR することができる。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）　目標に対する成果の状況

　県産材間伐材を活用した「路面水切工」を設置することで、台風による流出防止に効果を発揮した。

　公園等に設置した間伐材ベンチに開設パネルを併せて設置することで、公園利用者に間伐材活用の PR ができた。

（２）　課題

　地域での間伐による森林整備の促進と間伐材の木材利用推進が課題であり、地域材の活用方法を周知し利用拡大につなげることが課題。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	千曲市

No.	事　業　項　目	事　　　業　　　名
1	「みんなの暮らしを守る森林づくり」に関する事業	千曲市松くい虫被害防除対策事業
事　業　費　　１８４，０６０円　（うち支援金：　１２７，０００円）		

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

平成２８年度から薬剤空中散布を見合わせており、伐倒駆除を中心に対策を行なっているが、本来は森林所有者の責任において対策を行なうべきことであるため、なかなか対策が進まないのが課題である。

（２）本事業の目的

個人等が行う松くい虫被害伐倒駆除、地上散布、樹幹注入の経費の一部に対し助成を行うことで、市内松林の健全化を推進し、山地災害の防止や景観の維持等を図る。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　千曲市一円

（２）対象者　　松林所有者等

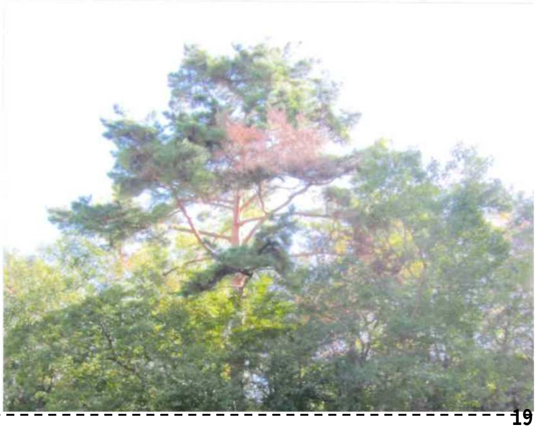
（３）実施方法

市内の個人、事業者が行う伐倒駆除、地上散布、樹幹注入について経費の補助を行う。なお、それぞれ、100,000 円、10,000 円、20,000 円を上限とする。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和４年度）②令和元年度実績

５０万円×５年＝２５０万円　　184,060 円　※所有者等からの実績報告に基づく



事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

市内松林の健全化を推進し、山地災害の防止や景観の維持等を図ることができた。

（２）継続性

補助金額に上限があり数に限りがあるものの、個人が所有する松の防除対策につながった。

（３）普及性

枯損木の処理も対象となるため景観の向上につながった。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

事業が始まり３年目の今年は昨年より２件少ない３件の申請があった。個人で松くい虫防除対策を行う場合、費用が大きな負担となるが、補助を行うことで軽減を図ることができた。

（２）課題

地上散布や樹幹注入は実施時期が限られることから早期の制度周知が必要である。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

・伐倒駆除　３件　　・樹幹注入１件

・地上散布　１件

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	千曲市

No.	事　業　項　目	事　　　　　業　　　　　名
2	「木を活かした力強い産業づくり」に関する事業	市が管理する公園等における木製ベンチの導入
事　業　費　　４００，０００円　（うち支援金：　３５０，０００円）		

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（1）地域の森林・林業の現状と課題

市有林の間伐を進める時期となっているが、費用が嵩むことと木材価格の低迷により計画どおり進まないのが課題である。

（2）本事業の目的

県産材を利用した木製ベンチを市営施設に設置し、市民等に対して県産材の普及・啓発を行う。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（1）実施場所　市内公園等

（2）対象者　　地域住民

（3）実施方法

間伐材を利用したベンチを作成し市内の公園等施設に設置をする。

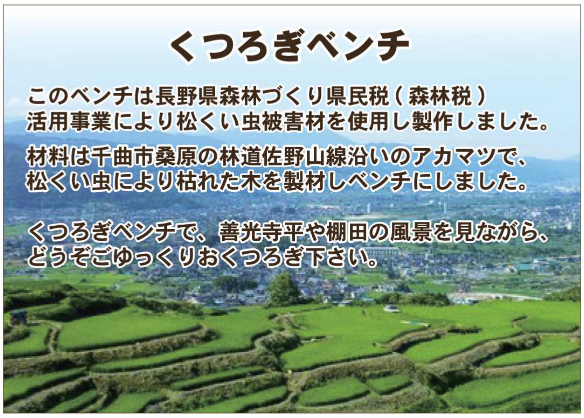
（4）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和 4 年度）

４基×５年＝２０基

②令和元年度実績

１０基（松くい虫被害木を活用）



事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

松くい虫被害木の有効活用を図ることができた。

（２）継続性

市内の施設に計画的に設置できた。

（３）普及性

設置したベンチが被害木を利用したものと分かるよう看板を設置しＰＲを行なった。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

市内の循環バスの停留所に松くい虫の被害木を利用した木製ベンチを１０基設置した。

（２）課題

・搬出がし易い場所を選定しなければ費用が嵩んでしまう。

・製材に適した被害木の選木が必要である。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

松くい虫被害木を活用したベンチ　１０基

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	千曲市

No.	事　業　項　目	事　　　　業　　　　名
3	「森林を支える豊かな地域づくり」に関する事業	協働による森林 づくり事業
事　業　費　　２００，０００円　（うち支援金：　２００，０００円）		

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

地域の高齢化や若者の関心の低さが関していると思われるが、手入れが行き届いておらず、森林の荒廃化が進んでいる。

（２）本事業の目的

市内団体等の主体により、市町村を超えた呼びかけによる森林整備活動を通じて広く森林の多面的役割や森林整備の必要性に対する啓発を図り、理解を深める。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　市内一円

（２）対象者　　林業研究グループ、ＮＰＯ法人等による住民参加の森林体験活動に取り組む団体

（３）実施方法

林業研究グループ、ＮＰＯ法人等による市民参加の森林体験活動について、必要物資・活動経費の補助を行う。なお、1 団体あたりの補助金額は 100,000 円を上限とする。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和 4 年度）	②令和元年度実績
30 万円×5 年＝150 万円	20 万円

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

林業関係団体の育成と、市町村を超えた市民等に対し、森林に対する啓発を図ることができた。

（２）継続性

１団体は近年毎年事業を行っており継続性がある。

（３）普及性

市民の目に届く場所であるため、本事業に関して興味を持ってもらえた。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

２団体が実施し、雑木の除間伐、大人と子供がペアになり下草刈り作業を行った。また、県林務課から提供いただいた「保安林のしおり」を子供達に配布し森林づくりの大切さや役割について説明した。

（２）課題

応募の時点で事業内容の精査を行う必要がある。広報等は市町村を超えて広く行うが、市外からの参加の増加に対しての有効な取り組みに苦慮している。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

２団体が引き続き事業を実施する見込み。

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	千曲市

No.	事　業　項　目	事　　　業　　　名
3	「森林を支える豊かな地域づくり」に関する事業	里山景観整備事業

事　業　費　　８４０，０００円　（うち支援金：　８４０，０００円）

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

地域の高齢化や若者の関心の低さが関していると思われるが、手入れが行き届いておらず、森林の荒廃化が進んでいる。

（２）本事業の目的

里山の景観・森林機能向上や野生鳥獣被害対策を目的として、森林造成事業で補助対象とならない里山の竹林整備・藪払い等の森林整備について補助を行う。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　市内一円

（２）対象者　　森林整備に取り組む団体等

（３）実施方法

下刈り・竹林整備・藪払い等の作業について、労務費（１人１日あたり 6,000 円）の補助を行う。なお、1 団体あたりの補助金額は 60,000 円を上限とする。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和 4 年度）　　②令和元年度実績

66 万円×5 年＝330 万円　　　　　　84 万円（14 団体）

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

里山景観の向上・野生鳥獣被害の軽減が図られるとともに、市民自ら作業することにより、森林への関心を高めることができた。

（２）継続性

事業を実施する山林のほとんどが１年では整備できない為、毎年市民の方に作業してもらうことにより市民の団結や森林への関心が高まった。

（３）普及性

実施場所の中には市民の目に届く場所もあるため、本事業に関して興味を持ってもらえた。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

１４団体が施業を行い、延べ人数５７０人により、合計１５．８６ha の里山の整備が行われた。

（２）課題

施業内容が対象要件に合致しなかったことから、応募の時点で事業内容の精査を行う必要がある。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

１４団体が引き続き事業を実施する見込み。

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	坂城町

No.	事　業　項　目	事　　　業　　　名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	坂城町里山景観整備事業
事　業　費　　４５９，０００円　（うち支援金：　　４５９，０００円）		

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫による被害が増加している。

里山における広葉樹等の整理伐採が急務となっている。

（２）本事業の目的

伐倒駆除を行い、被害蔓延を防ぎ、地域の森林づくりを推進する。

整理伐採が必要な広葉樹等を伐採し、森林の健全な保全管理を行い、伐採した木材は、きのこの原木材として有効活用する。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　坂城町大字坂城、大字南条

（２）対象者　　地域住民

（３）実施方法　地域要望に応じた松くい虫の被害木の伐倒駆除を行う。
町内の森林で整理伐採が必要とされる広葉樹等を適宜間伐する。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（令和元年度～令和５年度）　・被害木 100 本　・広葉樹等 50 ㎥

②令和元年度実績　・被害木 68 本　・広葉樹等 15 ㎥

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

松くい虫の被害木の伐倒駆除を行うことで、被害蔓延を防ぎ、森林の健全化を図り、土砂災害を防ぎ、水源の涵養機能の増加に効果的となる。

伐採した木材をきのこ原木材として活用することで、循環型の森林資原が可能となる。

（２）継続性

地域住民が参加することによって、自らの里山を守る自覚が促され、事業の継続性と発展性が期待できる。

（３）普及性

松林の健全化により、景観の保全と松茸の産出で事業の効果が県民に対し視覚的に確認できる。

地域の里山で伐採された原木を利用した、きのこを販売することで県民に対し効果をアピールする。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

令和元年度は、被害木 20 本の伐倒駆除計画に対し、68 本の実績となった。広葉樹等は 10 ㎥の整理伐採計画に対し、15 ㎥の実績となり、地域住民の積極的な参加による景観整備が進んでいる。

（２）課題

昨年同様、被害木の範囲が予想以上に拡大していることから、さらなる地域住民の参加が、望まれる。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

令和元年度から令和 5 年度の 5 年間で、被害木 100 本の伐倒駆除計画に対し、令和元年度は 68 本の実績となり、計画の 100 本に対しては、令和 2 年度に達成が見込める。広葉樹等の整理伐採計画についても、50 ㎥の計画に対し、令和元年度は 15 ㎥となり、計画どおりの達成が見込める。

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	坂城町

No.	事　業　項　目	事　　　業　　　名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	坂城町森林景観整備事業
事　業　費　　３０３,０００円　（うち支援金：　２９３,０００円）		

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

地域の公園となっている里山において、伐倒・くん蒸処理後の松くい虫被害木の枯損木が放置されており、ウォーキングする住民の安全への不安や景観の悪化を招いている。

（２）本事業の目的

枯損木を搬出し、チップ化することで適正な処理を行うことで、里山の景観保全、遊歩道の安全確保を図る。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　坂城町大字網掛

（２）対象者　　坂城町

（３）実施方法　現場から松くい虫被害木の伐倒駆除・くん蒸処理後の枯損木を搬出し、工場でチップ化する。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（令和元年度～令和５年度）　・5 ㎥／年×5 ヶ年＝25 ㎥

②令和元年度実績　・6 ㎥

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

森林の景観保全と林内の安全確保とともに、枯損木のチップ化で森林資源を循環的に活用することが可能となる。

（２）継続性

地元の里山整備を地元業者に委託することで、関心も高まり、事業の継続性と発展性が期待できる。

（３）普及性

枯損木を撤去することで、森林景観を保全する。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

令和元年度は、枯損木搬出を５㎥の計画に対し、６㎥の実績となり、計画どおりの達成が見込める。

（２）課題

昨年同様、被害が予想以上に拡大していることから、町内の景観保全を図るため更なる被害防除対策の強化が必要。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

令和元年度は、計画を超える６㎥の処理を実施したが、今後も引き続き実施して行く。

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	小布施町

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る森林づくり	松林健全化推進事業の補助対象外の松くい虫被害防除
事業費	69,984 円	（うち支援金：69,000円）

事業目的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

公園や街路にある松はいわゆる国庫の補助の対象外であるが、それらの松に対してもいわゆる松くい虫の被害が発生している。

（２）本事業の目的

国庫補助対象外の松くい虫被害木に対し、森林づくり推進支援金を活用し駆除することで、松くい虫の被害拡大を防ぐ。

事業内容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所

小布施町内全域

（２）対象者

地域住民、事業者

（３）実施方法

事業予定地は公園等公共性が高く人の往来が多いエリアのため、集積・くん蒸することが難しい。そこで被害木を破砕処理する。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成30～令和４年度）

破砕処理　15.0 ㎥（各年度 3.0 ㎥）

②令和元年度実績

破砕処理　1.8 ㎥

事 業 効 果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施による効果
被害木を処理することにより、次年度の被害の拡大を防止する。

（２）継続性
松くい虫による被害は、年により被害量の増減はあるものの引き続き発生している。さらなる被害拡大を防ぐため、継続して伐倒駆除を行っていく。

（３）普及性
松くい虫の被害木は、木々の緑が映える時期にも関わらず枯死し葉が赤色に変色してしまう。枯死した松を伐倒することにより、一目で景観も良くなり、広く町民に事業効果を示すことができる。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況
松くい虫の被害が発生し、被害地区自治会長から駆除要望が寄せられた千両公会堂等での被害に対し、約 1.8 ㎥の伐倒駆除を実施した。

（２）課題

（３）今後の取組方向

□事業を現行どおり継続する
（今後の事業実施見込について記載）
今後も被害の拡大を防止するため事業を継続して実施する。

□事業内容を見直して継続する
（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない
（継続しない理由を記載）

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	小布施町

No.	事業項目	事業名
2	木を活かした力強い産業づくり	県産間伐材を用いたベンチの設置
事業費 41，250 円 （うち支援金：41，000円）		

事 業 目 的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

小布施町は県内一森林面積が狭い市町村であり、林業従事者もとても少ないため林業及び県産間伐材の利用に対しての意識を醸成しづらい環境にある。

（２）本事業の目的

県産間伐材を使用している旨を刻印したベンチを設置することで、森林税や間伐材など身近な林業への関心を高める。

事 業 内 容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所

小布施町内・中央公会堂

（２）対象者

町民及び観光客

（３）実施方法

県産間伐材をベンチに加工できる事業者に発注。町内の観光スポットであるおぶせミュージアム中島千波館に隣接した中央公民館に設置し、県産材のＰＲをする。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和 4 年度）

県産間伐材使用ベンチ　25 基（各年度 5 基）設置

②令和元年度実績

県産間伐材使用ベンチ　1 基　設置

事 業 効 果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施による効果

県産間伐材利用の促進及び地元林業の担い手の育成。県産間伐材及び森林税活用のＰＲ効果。

（２）継続性

町内全域にある観光スポットはその数も多く、全てに設置できずにいるのが現状である。また、住民からベンチの設置を求める声が寄せられていることもあり、効果をより普及拡大させるためには、未だ設置数が不足している。

（３）普及性

小布施町の各所にある観光スポットに県産間伐材ベンチを設置することで、住民のみならず年間 100 万人以上訪れる観光客に対しても県産材のＰＲをすることができる。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

当町の森林は小規模所有がほとんどで、林業で生計を立てるものがないため、森林整備の促進と併せて、いかに森林税が活用され、間伐材が利用されているか、ＰＲすることが重要である。

（２）課題

（３）今後の取組方向

□事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

当町には観光に訪れる人も多いため、今後も町の施策に合致する形で、あらゆる方策によりＰＲに努めていく。

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	小布施町

No.	事業項目	事業名
3	森林を支える豊かな地域づくり	野生鳥獣の緩衝帯整備
事業費	３３８，９０６円	（うち支援金：３３６，０００円）

事業目的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

高山村や中野市との境にある雁田山は、山麓が集落等と隣接しているため、地域の人々の生活に深くとけこんでいる。しかし、近年、林業の衰退及び急傾斜地であることから間伐などの森林整備がほとんど行われなくなってしまい集落等に野生鳥獣が出没することがある。

（２）本事業の目的

雁田山の健全な森林環境を保全するとともに、野生鳥獣と農村集落の共存・共栄のため、緩衝帯を設けるとともに里山を整備することを目的とする。

事業内容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所

小布施町雁田地区

（２）対象者

地域住民、農協、行政、一般ボランティア

（３）実施方法

鎌や太枝切鋏、ビーバー等での下草刈り及び高枝のこぎりでの枝払いを実施する。また、実施が困難な箇所については一部を委託して行った。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和 4 年度）

緩衝帯整備 距離約 1,500m（各年度 300m）幅 15m

②令和元年度実績

緩衝帯整備 距離約 300m幅 15m

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施による効果
野生鳥獣が身を隠せる下草を伐採することで、集落等に出没しづらくなる。森林整備を近隣住民自らが行うことにより、森林に対する意識が向上する。

（２）継続性
近隣住民による緩衝帯整備は、平成 16 年度から継続して毎年実施している。下草が 3～5 年程度で成長してしまうため、同程度のサイクルで事業個所を変更し実施していく。

（３）普及性
雁田山麓には遊歩道も整備されているが、ウォーキングやランニング等で利用する住民も多い。また、岩松院や浄光寺といった町内有数の観光スポットもあり、観光客も多く訪れている。緩衝帯整備により下草を刈ることで、森林景観も良くなり、広く事業効果を普及することができる。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況
住民ボランティアの協力も得て本事業を行った。地元自治会を中心に約 119 人の参加があった。

（２）課題
①作業時期について、近年、ぶどう収穫後の 11 月第 2 日曜日になっているが、農作物の被害防止の観点からより効果を得るためには、春から夏にかけてなど早期に実施する必要があるのではないか。
②今回、作業にあまり時間がかからなかった。この程度の作業時間（範囲）であれば、より早期に実施することも可能ではないか。地元自治会と協議する必要があると思われる。
③今回の作業場所には日陰を作るような樹木がないため、すぐに下草が生えてしまう。今後、植樹等を検討する必要がある箇所でないかと思われる。

（３）今後の取組方向
□事業を現行どおり継続する
（今後の事業実施見込について記載）
年々、地域住民の山林に対する意識が向上してきていると考えられる。防護柵による侵入防止対策と組み合わせることにより、有害鳥獣による農作物の被害も軽減されてきている。今後も、継続して里山を地域住民と行政が一体となり整備していく。

□事業内容を見直して継続する
（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない
（継続しない理由を記載）

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	高山村

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る森林づくり	松くい虫被害木駆除事業
事業費 783,750円 （うち支援金： 550,000円）		

事業目的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

松くい虫被害が増加し、森林の環境に悪影響を与えていることから、森林の健全な育成や森林景観を保全するため、松くい虫被害防除を行う必要がある。

（２）本事業の目的

松林健全化推進事業及び保全松林健全化整備事業の対象とならない森林以外の箇所の松くい虫被害木を駆除し、景観の向上を図る。

事業内容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　森林以外（公園等）の松林

（２）対象者　　松林所有者

（３）実施方法　森林以外の松くい虫被害木の伐倒及び破砕処理を行った。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和４年度）　平成 30 年度～令和４年度　15 ㎥×５年＝75 ㎥

②令和元年度実績　19 ㎥

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

松くい虫被害蔓延の防止。森林の健全化。

（２）継続性

松くい虫被害蔓延の防止。森林の健全化。

（３）普及性

目立つ被害木の駆除により良好な景観が形成でき、今後の被害拡大防止に繋がっている。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

森林以外の松くい虫被害木の伐倒及び破砕処理ができ、景観の向上に繋がっている。

実施材積　特殊破砕 19 ㎥　実施本数 25 本

（２）課題

全体計画（平成 30 年度～令和 4 年度）では、15 ㎥を計画しているが、今後、森林以外の箇所に松くい虫被害木が蔓延する恐れがある。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

森林以外の箇所に松くい虫被害木が蔓延する恐れがあることから、今後 25 ㎥程の材積を見込む必要がある。

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	高山村

No.	事業項目	事業名
3	森林を支える豊かな地域づくり	村内緑化事業
事業費　７４，００２円　（うち支援金：　５０，０００円）		

事業目的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

村民の憩いの場や子どもたちの遊び場として区集会場や公園緑地が必要であり、区集会や公園緑地に緑化木を植栽し、自然環境と人との豊かなふれあいの場を図る必要がある。

（２）本事業の目的

景観の維持向上を図るため、各地区区長へ希望苗木を募り、村民自らが行う緑化活動の促進を図る。

事業内容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　区集会場敷地及び公園緑地等

（２）対象者　　村民

（３）実施方法　各地区区長へ希望苗木を募り、集会場等の敷地内に緑化木を植え緑化活動を行った。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成30～令和４年度）　令和元年度　大山桜、ドウダンツツジ等の苗木61本を配布。

令和元年度～４年度　ドウダンツツジ等の苗木100本を配布。

②令和元年度実績　大山桜、ドウダンツツジ等の苗木61本を配布

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

村内の緑化。住民の山林に対する意識の向上。森林税のＰＲ

（２）継続性

景観の維持向上及び緑化推進が図られる。

緑化活動が進み、森林等への関心が高まっている。

行政地区単位で、緑化推進活動への関心が高まっている。

（３）普及性

区集会場敷地及び公園緑地等に、緑化木が増えつつあり、景観の維持に繋がっている。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

区集会場敷地及び公園緑地等に、緑化木が増えつつあり、景観の維持に繋がっている。

実施自治区　８区

緑化木苗木　大山桜10本・山ツツジ10本・ドウダンツツジ10本・アジサイ４本
クロモジ10本・ガクアジサイ８本・ハナモモ９本　合計61本

（２）課題

全自治区26区がこぞって苗木を植えることで、緑化活動が盛んになり、景観の向上及び緑化推進に繋がるが、毎年10区程の希望苗木の要望しかないことから、自治区全体で気運を盛り上げる必要がある。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

毎年、緑化木を植えている区及びそれ以外の区に対して、緑化活動の大切さを周知する。

事業費116千円

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	高山村

No.	事　業　項　目	事　　　　業　　　　名
3	森林を支える豊かな地域づくり	緩衝帯整備事業
事　業　費　５５０，０００円　（うち支援金：　１９０，０００円）		

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

有害鳥獣による農作物被害が増加しており、対策として有害鳥獣の捕獲や電気柵を設置し防除対策の強化を図っている。村内の恒久電気柵の距離は 27,496mあり、地域で電気柵の維持管理を行っている状況だが、高齢化の進行や人口減少に伴い、電気柵の維持管理作業が年々厳しくなってきている状況にある。

（２）本事業の目的

有害獣の被害防止にかかる緩衝帯整備を実施する。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　高山村大字高井字水澤原

（２）対象者　　周辺農地の耕作者

（３）実施方法　電柵進入路の刈払いを行った。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和４年度）　令和元年度　長さ 400m×幅５ｍ＝2,000 ㎡

令和元年度～４年度　長さ 560m×幅５ｍ＝2,800 ㎡

②令和元年度実績　長さ 400m×幅５ｍ＝2,000 ㎡

事 業 効 果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

農作物被害の軽減及び人身被害の防止が図られた。

（２）継続性

持続的に緩衝帯整備を実施することで、農作物被害の軽減及び人身被害の防止が図られた。

（３）普及性

草木や小径木、不要な雑木を伐採することで見通しが良くなり、野生獣の潜み場をなくし、農地への出没や侵入を抑止、農作物被害の軽減が期待できる。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

草木や小径木、不要な雑木を伐採したことで見通しが良くなり、野生獣の被害対策に繋がっている。

実施面積　長さ 400m×幅５m＝2,000 ㎡

（２）課題

全体計画（平成 30 年度～令和４年度）では、年間で長さ 400m×幅５m＝2,000 ㎡を計画しているが、今後、立地条件の悪い箇所に電気柵が設置してあることから、不要な雑木等の伐採に多額な経費がかかる恐れがある。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

今後は令和元年度に実施した箇所から緩衝帯整備を実施する予定であるが、年間で長さ 600m×幅５m＝3,000 ㎡を計画しているが、立地条件が悪い箇所では 3,000 ㎡できない恐れがある。

☐事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

☐事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	信濃町

No.	事　業　項　目	事　　　業　　　名
3	「森林を支える豊かな地域づくり」	森林整備支援事業
事　業　費　　79,200 円　（うち支援金：79,200 円）		

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

　信濃町は山麓が集落と隣接しているため、地域の人々の生活に深く溶け込んでいる。里山の整備が近年の課題となっている。

（２）本事業の目的

里山整備を推進するための森林整備に必要な資材等を整備し、住民協働による森林整備等の支援を行う。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　信濃町一円

（２）対象者　　地域住民

（３）実施方法

　刈払い機を購入し、信濃町の備品として管理し、必要とする地域住民に貸し出しを行う。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（令和元年度～令和４年度）

刈払い機２機購入×４＝８機

②令和元年度実績

刈払い機２機購入

（　写　　　真　）

事 業 効 果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

近隣の里山を住民自ら整備することを支援し、野生鳥獣に対する緩衝帯整備や森林整備等に対する意識が向上する。

（２）継続性

地域住民の意見も取り入れつつ、来年度の事業内容についても、検討したい。

（３）普及性

里山の森林整備や緩衝帯整備により、森林の景観向上や野生鳥獣被害の減少など、周りの住民にも普及啓発することが出来る。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

令和元年度中に刈払い機２機を購入することが出来た。

（２）課題

信濃町の備品として刈払い機があることをどのようにして広報し、活用してもらうのか検討する必要がある。

（３）今後の取組方向

□事業を現行どおり継続する

☑事業内容を見直して継続する

・来年度については、事業内容について再度検討を行う。

□事業を継続しない

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	飯綱町

No.	事　業　項　目	事　　　　業　　　　名
2	木を活かした力強い産業づくり	木製ベンチの制作
事　業　費	41,360　円	（うち支援金：　　0　円）

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

間伐材利用の普及啓発のために、間伐材を利用したベンチ等を制作する。

（２）本事業の目的

町内の公共施設にベンチを設置することで、間伐材の啓発を図る。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所：町内公共施設

（２）対象者：一般住民

（３）実施方法：町が業者に依頼しベンチの制作を行う。

（４）事業量：ベンチ２脚

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施による効果

（事業目的に対応する効果について記載）

間伐材利用の普及、啓発効果が見込める。

（２）普及性

（事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載）

施設の利便性向上により、利用者の増加が見込める。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

住民の多く集まる町内公共施設に間伐材を利用したベンチを設置したことで、間伐材利用の啓発ができた。

（２）課題

一般住民に間伐材利用を、より効果的にアピールしていくことが課題であり、人が多く集まる場所に設置することが重要である。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

要望があれば、予算の範囲内で継続して実施していく。

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	飯綱町

No.	事　業　項　目	事　　　　業　　　　名
3	森林を支える豊かな地域づくり	野生鳥獣の緩衝帯整備
事　業　費	706,200　円	（うち支援金：　612,000　円）

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

農地に近い里山で野生鳥獣の出没が多く、農作物被害が多発しており、課題となっている。

（２）本事業の目的

農作物被害を防ぐため、緩衝帯整備（間伐・藪払い）を行う。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所：倉井地区

（２）対象者：飯綱町(地区住民及び地区耕作者を主体)

（３）実施方法：町が業者に依頼し緩衝帯整備（間伐・藪刈り）を行う。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30～令和４年度）町内 5ha(1ha×５年)

②令和元年度実績　倉井地区 5,000 ㎡

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施による効果

（事業目的に対応する効果について記載）

集落や農地に近い里山の目に見える部分の緩衝帯整備（間伐・藪刈り）を実施することで、野生鳥獣が出没しにくい環境をつくり、被害防止に繋げる。

（２）継続性

（事業又は事業効果の継続性、発展性について記載）

農作物に対する野生鳥獣被害は、森林との隣接地を主体に飯綱町全体に及んでおり、継続し実施する必要性がある。

（３）普及性

（事業の効果が県民等の目に見える形で発現されるものであることについて記載）

農作物に対する野生鳥獣被害対策は、住民にとって大きな課題であり、集落周辺の見える場所で実施することにより住民への PR 効果は高い。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

事業実施場所周辺での野生鳥獣による農作物被害の軽減に期待したい。

地域の課題となっている、野生鳥獣被害対策を住民の身近な個所で実施することは PR 効果が高い。

（２）課題

野生鳥獣との共存を含め、野生鳥獣被害対策は町内全体の課題であり、町内全体に対する引続き対策の実施が課題。

（３）今後の取組方向

☑事業を現行どおり継続する

（今後の事業実施見込について記載）

予算の範囲内で継続して実施していく。

□事業内容を見直して継続する

（見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載）

□事業を継続しない

（継続しない理由を記載）

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	小川村

No.	事　業　項　目	事　　　業　　　名
1	「木を活かした力強い産業づくり」 に関する事業	木製バス停・木製ベンチ製作事業
事　業　費　８５３，６００円　（うち支援金：　５６９，０００円）		

事　業　目　的

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）地域の森林・林業の現状と課題

森林を地域が持続的に管理していくためには、地域の消費者が求める木材を地域で生産し活用する「地消地産」の取組を推進することが必要である。

（２）本事業の目的

（(1) の課題への対応方向について記載）

間伐材の普及啓発を行うために、間伐材を利用した木製バス停・木製ベンチを当村の最大の観光地である日本記地区等へ設置することにより、観光客や村民の注目を浴び、木の温もりを意識することで、県産材利用の動機付けを図り、将来における県産材の利用者（将来の木の使い手）づくりに繋げる。

事　業　内　容

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）実施場所　：小川村　日本記

（２）対象者　　：保育園児、小学生、バス停利用者

（３）実施方法　：県産材を利用したバス停・木製ベンチを製作し、設置する。
利用者が木の温もりと触れ合えるバス停の製作。

（４）事業目標及び当年度事業量

①全体計画（平成 30 年度～令和４年度）

平成３０年度：にこにこ保育園　キッズハウス等

令和元年度：木製バス停・ベンチ作製

令和２年度～３年度：小川小学校　裏山ランド整備　木製遊具等

令和４年度：にこにこ保育園　わんぱくの森整備　木製遊具等

②令和元年度実績

木製バス停製作設置　１基
木製ベンチ　２台

事　業　効　果

（別記様式第１号附表の「個別事業実績」から転記）

（１）事業実施の効果

間伐材利用の推進、間伐材利用の啓発、癒しの場の提供

木材製品のＰＲ、森林税のＰＲ

（２）継続性

感受性豊かな保育園～中学生までに、普段から県産材利用のバス停を使うことにより、

木の温もりを体験し喜びを提供することで、県産材利用の動機付けを図り、将来における県産材の利用者（将来の木の使い手）づくりに繋げる。

（３）普及性

普段から県産材を利用することにより、将来における利用者拡大に繋げる。

事業の検証及び評価

（実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載）

（１）目標に対する成果の状況

木製バス停を設置することにより、雨風をしのぐ場所を提供することにより県産材と触れ合う時間が増える。また、待ち時間も安全にバスを待つことができる。

イスの提供により、観光客に対して木のぬくもりを与えることができ、県産材のＰＲができる。

（２）課題

今回は地区要望により事業目標の全体事業計画を変更したが、建物を長期的に維持管理するには、地元の理解が必要である。県産材の利用量は一時的に増加するが、継続して利用することができない。

（３）今後の取組方向（今後の事業実施見込について記載）

今後は、村産材の有効活用として木質バイオマスボイラーの導入も検討したい。

バス停留所
次木
小川村営バス

長野県森林づくり
県民税活用事業
森林づくり推進
支援金を活用
産地:長野県産杉
2019年12月設置
小川村

令和元年度森林づくり県民税活用事業　執行状況

事業名	市町村	事業主体	箇所名	事業内容	事業期間	事業費(円)	補助金額(円)	備考
道路への倒木防止事業②						－	－	
	管内計					－	－	

事業名	市町村	事業主体	箇所名	事業内容	事業期間	事業費(円)	補助金額(円)	備考
河畔林整備事業④	坂城町	県	日名沢川	河畔林整備	R1.4～R2.3	4,031,640	－	
	須坂市	県	仙仁川	河畔林整備	R1.4～R2.3	1,991,000	－	
	信濃町	県	鳥居川	河畔林整備	R1.4～R2.3	3,102,000	－	
	小川村	県	瀬戸川	河畔林整備		896,400	－	繰越事業に増額
	坂城町	市町村	名沢川	河畔林整備	R1.4～R2.3	891,000	891,000	
	須坂市	市町村	山崎川	河畔林整備	R1.4～R2.3	4,741,200	4,741,200	
	高山村	市町村	柞沢川	河畔林整備	R1.4～R2.3	3,006,000	3,006,000	
	長野市	市町村	嘉児加川	河畔林整備	R1.4～R2.3	4,158,000	4,158,000	
	管内計					22,817,240	12,796,200	

事業名	市町村	事業主体	箇所名	事業内容	事業期間	事業費(円)	補助金額(円)	備考
エコツーリズムガイド人材育成事業⑫						－	－	
	管内計					－	－	

事業名	市町村	事業主体	箇所名	事業内容	事業期間	事業費(円)	補助金額(円)	備考
自然教育・野外教育推進事業⑬		長野県	千曲市立更埴西中学校	プログラムの実践	随時			
	管内計					－	－	

事業名	市町村	事業主体	箇所名	事業内容	事業期間	事業費(円)	補助金額(円)	備考
まちなかの緑地整備事業⑮	長野市	長野市	西風間遊園地	緑地整備	R2.3.16	5,500,000	2,750,000	
	管内計					5,500,000	2,750,000	

事業名	市町村	事業主体	箇所名	事業内容	事業期間	事業費(円)	補助金額(円)	備考
観光地の景観整備（県単道路橋梁維持修繕費）⑯	長野市	長野県	県庁前～長野大通り	街路樹整備2.4km	R1.6～	8,000,000		(国)406号他
	管内計					8,000,000	0	